

寄稿

金子みすゞ『私と小鳥と鈴と』の真意

鍋島 直樹(龍谷大学文学部教授)



あらゆる存在は異なり、ぶつかっ
て分断しても、互いに違いを認め合
うことが共に生きる道を開くと教え
る金子みすゞの詩がある。

『私と小鳥と鈴と』

私が両手をひろげても
お空はちっとも飛べないが
飛べる小鳥は私のように
地面を速くは走れない
私からたをゆすつても
きれいな音は出ないけど
あの鳴る鈴は私のように
たたくと音ははじけぬ
鈴と、小鳥と、それから私
みんなちがつて、みんないい
『金子みすゞ童謡全集』第6巻26
頁、JULIA出版

『私と小鳥と鈴と』という詩は



2012年に龍谷大学で初めて行われた「金子みすゞ展」のポスター

この世に存在する全てのものに、そ
れぞれ意味があることを気付かせて
くれる。誰も良い面だけでな
平等感を持っている。しかし、小鳥の
ように飛べなくても私にはなま
とがある。それが地面を走らせて
きれいな音は出なくても私にできる
ことがある。それがたたくと音を歌
うことである。「みんなちがつて
みんないい」という言葉は、相手
の限界と長所を知り、自己の
限界と長所を受けとめられることを
教えている。

金子みすゞ記念館の矢崎館長
は、彼女のまなざしについて「日
本語を味わう名詩入門」金子み
すゞ『あすなる童謡』に「意義
付けている。」

『みんなちがつて、みんないい。』
とは、一人ひとりの個性やちが
いを大切にすべからず、誰もがかけが
えない大切な存在と尊重してほしい
のことが実は『私と小鳥と鈴と』
という詩のいちばん大事なところ
は、一行前の「鈴と、小鳥と、そ
れから私」なのです。題は「私
と小鳥と鈴と」ですが、私の位置
がひっくり返って、「鈴と、小鳥
と、それから私」と、あなたと
私になったとき、初めて、「み
んなちがつて、みんないい。」と
いう、うれしい詩が成り立つ
のです。

『私とあなた』では「みんな
ちがつて、みんないい。」は成り
たちません。「みんなちがつて
みんないい。」の中には、人をい
じめたり、傷つける人はいりませ
ぬ。

2007年、矢崎館長の講演は、
愛するものの意味を考えさせてくれ
た。

『いま誰がつらい思いをしてい
るか、誰が悲しい思いをしている
か、誰が忘れてしまっている
か、という方にまなざしを向けたい
のです。平等に愛するということ
とは、果てしなく、あなたの方
に向かい合わないといけないの
に「同じ量をあけたら平等だ」と
思ってしまう。これは違います。
一人ひとりどう向き合うかなの
です。……とした瞬間に、あ
あ、そんな、「悪人正義」という
のは、そういうことも入っている
のかと思ってしまうとうれし
いです。』

『私を私であらしめて大切な
あなた』と共に生きていきたい。
ところで、詩題は「私と小鳥と鈴
ではなく、私と小鳥と鈴と」であ
る。それはなぜか。最後の「と」は、私
と小鳥と鈴の三者の関係が終わって
いるのではないことを示している。
『この後にはあなたも入っている。
』には、この世界のすべてのも

『私を私であらしめて大切な
あなた』と共に生きていきたい。
ところで、詩題は「私と小鳥と鈴
ではなく、私と小鳥と鈴と」であ
る。それはなぜか。最後の「と」は、私
と小鳥と鈴の三者の関係が終わって
いるのではないことを示している。
『この後にはあなたも入っている。
』には、この世界のすべてのも

『私を私であらしめて大切な
あなた』と共に生きていきたい。
ところで、詩題は「私と小鳥と鈴
ではなく、私と小鳥と鈴と」であ
る。それはなぜか。最後の「と」は、私
と小鳥と鈴の三者の関係が終わって
いるのではないことを示している。
『この後にはあなたも入っている。
』には、この世界のすべてのも

『私を私であらしめて大切な
あなた』と共に生きていきたい。
ところで、詩題は「私と小鳥と鈴
ではなく、私と小鳥と鈴と」であ
る。それはなぜか。最後の「と」は、私
と小鳥と鈴の三者の関係が終わって
いるのではないことを示している。
『この後にはあなたも入っている。
』には、この世界のすべてのも



金子みすゞの故郷、山口県長門市の「仙崎みすゞ通り」で
(写真左が鍋島教授)